

熊本県立岱志高等学校定時制 令和7年度（2025年度）学校評価表

1 学校教育目標	
1	夢（志）を描き、夢の実現への挑戦・・・志を育み、励まし、鍛え、伸ばす
2	心の教育の充実・・・自己肯定の心と命を大切に作る心、郷土を愛する心の育成
3	生徒指導の充実・・・基本的生活習慣の確立及び自律心の育成
4	確かな学力の育成・・・基礎・基本の確実な定着、個に応じた指導の充実

2 本年度の重点目標	
(1)	特色ある学校づくりを推進する。
(2)	学力の向上と進路保障の取組を強化する。
(3)	健全な心身を育成する。
(4)	安心・安全な学校を維持する。
(5)	地域社会の期待に応え、活力ある学校づくりに努める。
(6)	定時制の特色化を推進する。

3 自己評価総括表		※「成果と課題」の部分は、○：成果 △：課題・改善・継続等				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	○学校教育目標の具現化	○定時制教育の充実	○チーム・組織としての業務遂行	○全職員での生徒理解、組織的な指導の充実 ○学習・生活・進路等への的確な指導・支援の実践 ○地域や専門機関を活用した授業・講演会の実施	B	○職員連絡会での情報共有や生徒理解研修、特別支援教育委員会等を定期的に行い、指導・支援の連携を図った。 ○生徒の実態に合わせた学習や生活・就労の指導や支援ができた。 ○特別活動の時間を活用し、地域や専門家を招いた講演会等を実施した。
		○生徒にとって安心・安全な環境づくり	○職員・生徒の良好な関係づくり ○生徒個々への的確な対応及び指導	○日頃から生徒との会話を重視した言語環境の実践 ○学校行事の活性化 ○生徒理解研修や毎日の連絡会時での共通理解、組織での対応 ○家庭、関係機関との連携	A	○登校指導や学校行事等での関わりを通して良好な関係構築を図った。 ○生徒会を中心に生徒たちが主体性を持って学校行事を実施できた。 ○昼・夜2回の連絡会で生徒情報を全職員で共有し、荒尾市やSSWと連携しながら対応・支援につなげた。
		○本校定時制に関する効果的な情報発信	○ホームページや定時制だより等を活用した広報活動の充実 ○家庭への学校行事の周知・参加	○HPの充実（レイアウト・情報発信） ○HP記事を行事1週間以内に更新 ○定時制だよりを年5回発行 ○すぐるを活用した家庭への情報提供・参加の推進	B	○HPのレイアウト・各ページを視覚的に刷新した。学校行事はできるだけ早い更新を行った。 ○広報誌「夕凧」を予定通り発行することができた。 ○すぐるでアンケートや学校行事等の周知・参加推進を図ることで、回答率、参加率が向上した。
		○中学校（教員・保護者・生徒）への本校定時制教育に関する認知度・理解度の向上	○定時制教育内容等の周知	○学校見学やオープンスクールでの本校の特徴や教育内容、受検方法などについての丁寧な説明（ミスマッチの防止）	A	○学校見学やオープンスクールの他、今年度は公関係授業週間を設けて、関係機関や保護者に案内し、教育活動への理解促進を図った。

	○業務改善	○業務の効率化の推進	○ICTを活用した業務の効率化・時間削減	○ORPA、Forms、すぐる等のアプリの活用による効率化	B	○ICTを活用した業務を行うことで、ペーパーレス化、迅速な情報共有、データ活用が実現できた。
		○会議・研修等の効率化	○時間を有効に活用した会議・研修等の実施	○会議等の時間短縮 ○昼の連絡会の有効的な活用	B	○会議では、資料を事前に配付、またはゆうネットにUPし、会議時間の短縮を行った。また昼の連絡会を有効に活用し、職員研修を実施した。
	○働き方改革	○風通しの良い職場環境	○職員全体で課題に向かう集団形成	○職員が課題を抱え込まず意見や相談などを伝えやすい職場づくり	B	○生徒対応では、迅速に情報共有を行い、「報告・連絡・相談」を常に実践した。 ○校内の会議やSC、SSW、荒尾市等の関係機関と連携し、組織的に対応した。
		○職員の健康・安全の保持	○職員が健康でやりがいを持って業務にあたる環境づくり	○職員が互いに変化等に気づきサポートし合えるような職場環境づくり	B	○支援が必要な授業では、ITを行うことで、授業者をサポートした。 ○長期休業や考査期間の年休取得を促進し、職員の健康保持を図った。
学力向上	○基礎・基本の確実な理解と定着	○全職員による個々の生徒の学力把握と分析の共有	○基礎学力診断テスト「BIG GATE」等による学力分析結果の全職員での共有と情報交換	○分析結果をふまえた学習課題の設定と授業の改善、考査問題の作成	A	○学力分析会をもとに全職員で生徒の学力や特性の把握に努め、学習内容の計画や考査作成等に活かすことができた。
		○授業参加率の向上	○授業参加率82.0%以上（R6年度参加率81.3%） ○安易な授業遅刻・早退・欠課の減少	○欠課時数に関して教務から担任への情報提供 ○遅刻・欠席等が多い生徒との面談充実 ○教科担当・担任・家庭との連携の維持	B	○授業参加率は82.8%であり、目標を達成できた。 ○今年度から、欠課時数を全職員と共有した。面談、家庭への連絡は適切に行われた。 △安易な授業遅刻・早退・欠課やトイレ退下が散見された。
	○個に応じた指導・支援の充実	○個々の生徒における学習上の課題の把握や支援	○生徒の課題を全職員で情報共有するとともに、協力しながら学習面等あらゆる面での課題の解決	○生徒の情報共有、職員の相談やアドバイス等が気兼ねなくできる職員間のサポート体制づくり ○必要に応じてITを導入し、個別の支援を行う	A	○生徒理解研修において担任、教科担当者や養護教諭等と生徒の情報共有を行うことができた。 ○1年生の授業は年間を通してITで実施し、個々に応じた支援が行われた。
		○授業改善	○UDや特別支援教育の視点に立った「主体的・対話的で深い学び」へと導く授業の実践 ○ICTを活用した授業づくり	○日ごろの授業を常時公開 ○生徒の状況や教授方法等について情報交換 ○ICT機器を活用したわかりやすく、学習意欲が高まる工夫と情報の共有	B	○教科横断型授業や教員参加型の授業が複数回行われ、教授方法等についての情報交換が行われた。 △ICT機器に関して、教員の使用率は高いが、生徒の使用率はあまり高くなかった。

キャリア教育(進路指導)	○進路意識の高揚	○就労経験者率の向上	○就労経験者71%以上	○全校集会の活用 ○インターンシップの計画・実施・振り返り	B	○進路LHR「岱定らしんばん」を4回実施して進路意識の高揚を図った。就労経験者率は、約75%である。 △積極的な呼びかけを行い、数名の生徒が地元企業を見学することができた。
	○進路保障	○進路目標の達成状況	○進路決定100%	○生徒・保護者の進路希望の把握並びに早期の進路意識の高揚 ○進路情報の提供 ○各生徒の適性に応じた進路指導	B	○家庭訪問や三者面談等で進路希望の把握を行い、就職や進学に向けた進路意識の高揚を図った。 ○LHR等を通じて、進路情報の提供を実施した。 ○個別の面接・小論文指導により、生徒の適性に応じた進路指導を実施した。
	○ソーシャルスキルの育成	○生徒理解に基づく進路指導の取組	○自己理解・自己肯定感・自己管理能力の育成 ○人間関係・社会形成能力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成	○職場訪問の実施 ○LHRの活用(進路LHR「岱定らしんばん」) ○特別支援教育と連携したLHRの活用	A	○生徒の就労先の企業訪問を各担任等で実施した。 ○進路LHR「岱定らしんばん」を実施し、生徒理解に基づく進路指導を実施した。 ○ソーシャルスキルについて特別支援教育と連携したLHRを実施した。
生徒指導	○生徒理解に重点を置いた生徒指導の充実	○生徒理解研修の充実	○生徒の生育歴や家庭環境、交友関係、生活環境等の情報の共有、情報を基にした個別の対応	○連絡会等での生徒情報の共有 ○随時、生徒理解研修を実施 ○登校指導、巡回指導の実施	B	○日に2回生徒情報の共有を行い、生徒理解及び適切な指導につなげることができた。 ○その都度情報共有の時間を確保したことで、生徒理解のブラッシュアップができた。 ○生徒の変化を早期に発見、状況の傾聴・把握に努めることができた。
	○基本的な生活習慣の確立	○自律心、自尊心の育成	○校内外のルールの遵守を徹底し問題等の発件数を「0」にする	○巡回指導、個人面談の実施 ○きめ細かな家庭への情報提供及び共有、家庭からの情報提供の促進 ○進路の実現を目指し、その基盤となる生活指導の実施	B	○適宜巡回と定期的な面談により、落ち着いた学習環境の維持に努めた。 ○学校と家庭、双方向の情報を共有することで、より深い生徒理解を得ることができた。そのことが問題の深刻化を未然に防ぐ一助となった。 △問題行動は0件であったが、ヘルメット着用の徹底など課題も残った。
	○生徒会活動の活性化	○健全な心身の育成のための生徒の主体的な学校行事の運営	○生徒会行事への参加率90%以上 ○コミュニケーション能力の育成	○生徒同士で協働できる体制づくり、および適切な支援 ○生徒の主体的な活動に向けた適切な支援	A	○生徒会が主体となり、行事の内容を決定するなど、生徒主体の活動ができた。 ○学年を問わず、全校生徒での交流・協働を、行事を通して行えた。

人権教育の推進	○人権意識の涵養	○自己と他者の尊重と人権課題への理解	○より良い人間関係の構築 ○社会問題について学び、差別や偏見を見抜き、差別をなくすための具体的な行動ができる生徒の育成	○人権学習LHRを行い、社会の課題について理解し考える場を提供 ○年4回人権だよりを発行 ○自己の内面を見つめ、他者を理解し行動できることを目指した人権教育の実践	B	○全教職員による人権教育LHR「ホームルームとは何か」（朗読劇）の実施や水俣病の教訓を伝える高等学校等訪問事業の講演会を開き、身近な内容から社会問題について学ぶ機会を持つことができた。 △内面を見つめ、他者と協働して学ぶ関係づくりが今後必要である。
	○「命を大切に作る心を育む指導」の充実	○自尊感情と自己肯定感の確立	○自尊感情と自己肯定感の向上 ○学級担任等と連携し、個々の生徒における課題の把握や支援	○定時制広報を通じて生徒の成長を示す場を設定 ○生徒の居場所づくりを意識した学級運営 ○教職員間および外部専門機関との連携	B	○各教育活動の中で、生徒の思いを聞きながら、課題解決に向けて取り組むことができた。 △今後、教育活動において、生徒の居場所づくりを「なかまづくり」の視点も入れながら取り組んでいく必要がある。
いじめの防止等	○いじめ及び類似事案の根絶	○他者理解及び自尊感情の向上	○いじめ事案発生件数を「0」にする	○教育活動全般における人権意識の涵養 ○スクールロイヤーを活用したいじめ予防授業等の実施 ○いじめの未然防止指導、事案発生時の早期発見・早期対応、生徒・保護者・学校間の情報共有、個別事案対応、事後指導に至るまで、責任を持った指導の徹底	B	○日常的な声掛けや集会等、生徒の人権意識が高まるよう努めた。 ○今年度スクールロイヤー活用事業で専門的な知見を得ることで生徒の意識が向上するきっかけとなった。 ○現時点でいじめの発生はない。未然防止及び発生時の指導体制をさらに徹底していきたい。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	○学校運営協議会による地域との連携	○学校運営協議会の機能的な連携協力体制の構築	○学校運営協議会委員の意見等を反映した学校教育活動	○学校運営協議会委員の意見等を活かした本校の教育活動の改善	B	○学校運営協議会では学校に対する意見や期待、改善点を確認することができた。
	○荒尾市荒尾地区協議会との連携	○荒尾地区協議会運営委員会への参加	○地域住民へ定時制行事のPR及び理解	○荒尾地区協議会に参加し、地域へ定時制の取組等を説明する ○地域交流：食育講座の実施	B	○荒尾市荒尾地区協議会運営委員会へ毎月参加し、地域の方々へ本校の現況を報告した。 ○荒尾市や食改の方々を講師に迎え、食育講座で食習慣の改善に取り組んだ。
	○荒尾市防災対策会議との連携	○校内における防災意識の高揚	○あらゆる災害を想定した防災マニュアルの充実	○荒尾市総合防災訓練への参加	B	○本校は災害時物資拠点に指定されており、荒尾市防災安全課の指示のもと荒尾市職員と本校職員が連携して訓練に参加した。 ○校内では、火災時避難訓練を実施した。

環境教育	○環境美化と環境負荷低減の取組の充実	○身のまわりの環境整備と節電、食品ロス削減への意識の高揚	○清掃活動や整理整頓等による環境美化と節電、食品ロス削減	○教室・職員室及び周辺等の環境美化活動とゴミの分別、節電、食品ロス削減の取組	B ○毎日、教室の清掃・環境整備を行った。 ○登校指導の時間等に、職員が校内美化活動に取り組んだ。 ○昨年度から始めたプラスチックゴミの分別を含め、分別は習慣化した。 ○意識して節電に取り組むことができた。 ○食品ロス削減を呼びかけた。 ○生徒も花壇作りに参加し、学校環境の美化に努めた。 △生徒による清掃は、短時間から身の回りを片付けることを習慣化できるようにする。
特別支援教育の充実	○特別支援教育の職員の指導力の向上	○特別支援教育に関する職員の知識の向上および理解の深化  ○個に応じた支援の実践	○障がい特性や多様性に関する理解の深化と対応の充実 ○特別支援教育における自己実現に関する理解の深化  ○学校不適応の未然防止および早期対応を意識した支援の実践	○生徒理解研修の定期的実施 ○学校におけるUDの視点及び合理的配慮に関する職員研修の実施 ○特別支援教育に関する生徒・保護者対応、関係機関との連携についてガイドラインを作成 ○保護者への情報提供（研修、就労支援等）  ○生徒の状況把握、情報共有 ○要配慮生徒の個別の教育支援計画等の作成 ○SC・SSW・関係機関等と連携した支援 ○生徒支援及び特別支援教育委員会を開催し、情報共有と支援の方策を検討して支援を実施	B ○生徒理解研修を2回実施した。各教科担当者による「気づきシート」を作成して、生徒の学校生活の状況を把握し、学習や生活面での支援に活かした。 ○職員研修を実施して、学校における学びのUD化について理解を深めることができた。 ○保護者へ、研修会や就労支援に関する情報を提供できた。 △個々の生徒の自己実現を支援するために、学校におけるUDの視点や関係機関の情報を集約してガイドラインを作成する。  B ○生徒理解研修で、健康相談週間における面談の様子もふまえて情報共有を行い、支援に活かした。 ○生徒支援及び特別支援教育委員会を開催し、支援の方策を検討して、個別の教育支援計画等を作成した。 ○SSW、外部支援機関等とケース会議を実施し、必要な支援を検討した。 △生徒が生活基盤を整えて、自己実現できるよう支援していくことが課題である。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 学校経営について</p> <p>○学校評価表の結果を生徒・保護者・学校が共有し、一体となって更なる向上を目指してほしい。</p> <p>○少人数な学校という利点を活かして、生徒一人一人を大切に教育が行われている。</p> <p>○学校評価アンケートでは「相談に親身になって対応している」、「本校に入学させて良かった」について、毎年高い数値となっている。他の項目を見ても充実感・満足度の項目が高いことが分かった。これを中学生にも伝えていきたい。</p> <p>○生徒会行事への参加率の高さは、学年を問わず定時制全体としての環境醸成により、生徒が学校に行</p>
---

くことを楽しみにしている様子が窺えた。

(2) 学力向上・地域連携について

- 公開授業、認知症サポーター養成講座を参観し、生徒たちはしっかり取り組んでいた。
- 今年度は公開授業にも参加した。先生方一人ひとりに個性があり、生徒に響くように工夫がされている。よく聞いている生徒もいれば、そうでない生徒もいるが、何かしら必ず伝わっている。先生方の真摯な姿を見て、私もできることをしていきたい。
- 近所の方との会話にも岱志高校の話題が上がる。卒業生からこの地域を担っていく生徒が出てくると信じて、生徒たちの姿をこれからも見守っていきたい。

5 総合評価

(1) 本年度の学校教育目標について

- 生徒・職員ともに本校定時制に愛着を持ち、中学時代に不登校であった生徒も授業に参加し、学校生活の楽しさを感じながら、学校を「居場所」として充実した日々を送っている。職員もまた、「生徒を第一」に考えた教育活動を引き続き実践し、生徒に寄り添いながら指導にあたっている。
- 仕事(アルバイト)と学業の両立を図りながら生活することで、学校だけでなく社会の力を借りながらコミュニケーション力の育成に繋げているところである。

(2) 本年度の重点目標について

- 生徒たちは、中学時代に不登校を経験するなど様々な課題を抱えながらも、全体的に明るく元気に登校している。生徒会を中心に生徒たちが主体的に学校行事を運営する様子が見られるなど、成長が感じられた。
- 教職員は多様な価値観を持つ生徒たちそれぞれの距離間を考えて、寄り添うような指導を心掛け、家庭や関係機関と連携しながら指導に当たっている。
- 学力向上では、生徒の興味・関心を引くように、演習・実験等を取り入れた授業展開の工夫や電子黒板等の有効的な活用を実践している。

(3) 自己評価総括表について

- 「生徒にとって安心・安全な環境づくり」について、登校指導や学校行事等での関わりを通して良好な関係構築を図ることができた。また、昼・夜2回の連絡会で生徒情報を全職員で共有し、荒尾市やSSWと連携しながら対応・支援につなげた。
- 「中学校への本校定時制教育に関する認知度・理解度の向上」について、学校見学やオープンスクールその他、今年度は公開授業週間を設けて、関係機関や保護者に案内し、教育活動への理解促進を図った。
- 「生徒会活動の活性化」について、生徒会が主体となり、行事の内容を決定するなど、生徒主体の活動ができた。学年を越えて、行事を通して全校生徒での交流・協働を行えた。
- 「特別支援教育の職員の指導力の向上」について、生徒理解研修を実施し、教科担当者による「気づきシート」を作成することで、学習や生活面での支援に活かした。SSW、外部支援機関等とケース会議を実施し、必要な支援を検討した。今後も職員の指導力向上に努め、生徒にとって最適な学びの場を提供できるよう取り組んでいく。
- その他、6項目がA評価、21項目がB評価ということで、全般的には年度始めに設定した目標は概ね達成した。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 生徒・保護者が安心・安全な学校生活を送れる「荒定家族(あらていファミリー)」の継続

生徒一人一人が安心して学校生活を送れるように、教職員が生徒に寄り添い、個に応じた指導を行いながら、生徒・保護者・教職員の関係づくりを大切に、前身校からの生徒会スローガン「荒定家族」を継続する。

(2) 生徒・保護者・教職員が「岱志高校定時制でよかった」と思える学校づくりの継続

今年度の学校評価アンケートで保護者より「先生方の温かさで、つまづいていた子ども達が、もう一度一歩を踏み出し、学校生活を送る事ができていることに日々感謝の気持ちでいっぱいです。」という意見をいただいた。今後も生徒・保護者から信頼を得られるように、生徒・保護者・職員が「岱志高校定時制に来てよかった」と思える学校づくりを継続する。

(3) ICTを活用した基礎学力の充実

基礎学力の向上と学習内容の定着が不十分だと感じられる。不登校等で中学生までに身に付けるべき基礎学力が不足している。電子黒板やタブレット端末等を活用しながら、興味・関心を持たせ定着させていく。学びで得られる充実感、達成感が感じられるような授業を、生徒の実態に即しながら実践していきたい。具体的には公開授業期間等を活用し、授業の感想や気づきなどを職員で共有していく。

(4) 進路指導の充実

今年度、正社員として就職した生徒は2名である。正社員雇用に向けて今後も進路学習「岱定らしんばん」等を充実させながら、生徒が主体的に進路意識を高める取組を実践していく。

(5) 生徒指導関係

本年度もいじめ事案はゼロであった。今後も問題行動の発生抑止と問題が起こった場合の早期解決のための体制構築をさらに充実していく。

また、生徒会関係では学校行事に対する生徒たちの主体性は年々向上している。全校生徒が楽しく活動できる企画内容を今後も検討していく。

(6) 特別支援教育と個に応じた生徒への対応の充実

○特別支援教育について

療育手帳を取得している生徒を中心に、将来の就労に向けて、本人の自己理解を促すことが課題である。次年度は、自己理解を促すアプローチに関する職員研修を計画する。

○個に応じた指導・支援体制の充実

SST等の取組を取り入れ、対人関係や社会性の育成を図りながら、生徒一人一人が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めていく。